

聾学校小学部における教科学習の内容理解につながる

「みる力・きく力」を高める自立活動

— 発達段階と聴覚障害の特性を関連させた「みるきくパッケージ」の作成と活用を通して —

研究構想図

長期研修員 浅見 直子



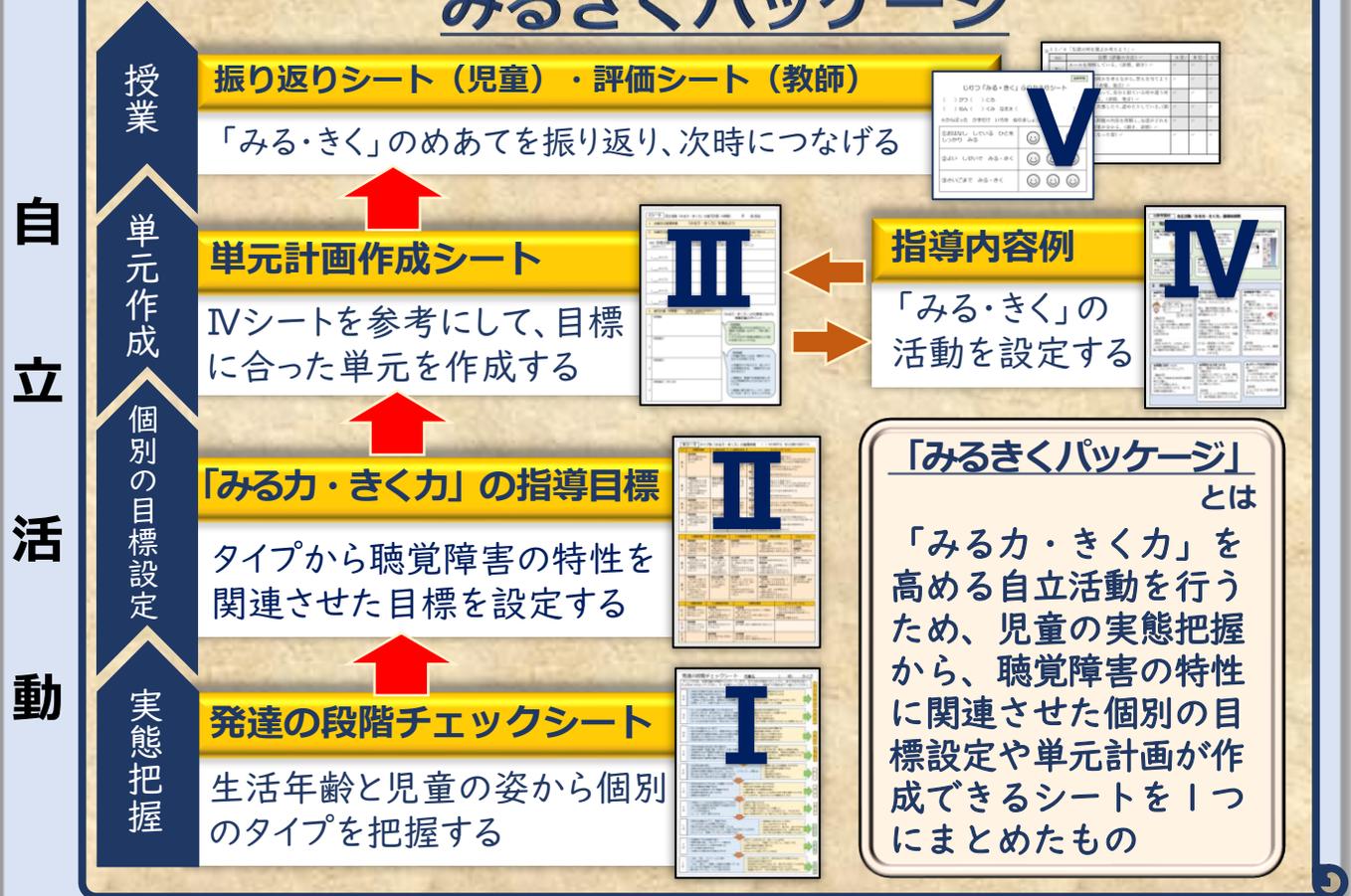
・友達の発表に注目したら、色々な考え方があることに気付いた！
 ・どんな話を考えながら「みて・きいて」いたら、話の内容が理解できた！
 ・友達と意見交換をすると、新しい考えが浮かんだり、考え方がまとまったりした！

日々の授業で、「みる・きく」姿を引き出していこう



「みる力・きく力」が高まり、円滑で的確な意思の相互伝達ができる児童

みるきくパッケージ



「みる力・きく力」を高めて
 児童同士のコミュニケーションを良好にしたい

児童の姿

聞こえにくさから、入る情報が少なかったり断片的だったりするために、誤解や勘違いが生じやすい。

教師の姿

児童同士の意思疎通がスムーズでないために、教師が会話の仲介に入ることが多い。

「みる・きく」
 とは

相手に注意を向け、話の内容を正確に理解・記憶し、共感的に見たり聞いたりして反応を相手に示す行為

「みるきくパッケージ」を活用した自立活動の実際 (A児の場合)

実態把握

Iシート	<ul style="list-style-type: none"> □ 誰のなかで友達と協力できる □ 二者関係から三者関係を築く □ 自分の気持ちや行動を振り返ることができる □ ルールを守り、言われたことを聞きにしやすい 	B2
<ul style="list-style-type: none"> □ 20~30分間集中でき、構造化した活動を好む □ 手順がいくつかある活動を終わりにできる □ 人の動きや騒音がある場所でも活動に集中できる □ 自分と他者の似ている/違うところに気付くようになる □ ゲームに勝つため、ルールを変えたりズルをしてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> □ 100まで数えられる □ 2, 5, 10ずつ数えられる □ 何事も一番になりたがる □ 本を読んだり見たりするのを楽しむ □ 自分の間違いを認めることが難しい 	B3
<ul style="list-style-type: none"> □ 簡単な計画を立てて、準備できる □ 1つの方法でしか物事を行うことができない □ 曜日が分かり過去と未来を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> □ 直感的に考えることが多い □ ルールを守ろうとする □ 友達と分け合ったり友達を助けたりでき 	C

Aさんは話し手をぼんやりと見ていることが多いな。他者の意見にも興味をもたせたい。



個別の目標設定

IIシート	1 心理的な安定	2 3人関係の形成	3 4 状況把握	5 コミュニケーション
1	<ul style="list-style-type: none"> □ 誰への対応 情緒保障の必要性を知る(3) □ 誰を知りたいか(3) □ 身の回りの生活音や環境音について知る(3) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 他者理解 相手の気持ちを受け入れる(1,2) □ マナー 生活の中で自分と立てている音があることを意識する(4) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 感覚活用 手話、口形、文字情報などから情報を得る(3,4) □ 状況把握 補聴器や人工耳を活用して注意して聞こうとする(1,2) □ 生活音や危険な音を知る(1,2) □ 感覚活用 手話、口形、文字情報などから情報を得る(3,4) □ 相手の話が分からなかったとき 	<ul style="list-style-type: none"> □ 言語覚醒 必要を感じたときに見る/聞く(2) □ 言語発出
2	<ul style="list-style-type: none"> □ 困窮への対応 自分が聞えない、聞えにくいことを相手に伝える(3) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 他者理解 話を聞いて友達との類似点、相違点に気付く(3) □ マナー 生活の中で聞いている音が聞こえていないことを意識する(4) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 状況把握 補聴器や人工耳を活用して注意して聞こうとする(1,2) □ 生活音や危険な音を知る(1,2) □ 感覚活用 手話、口形、文字情報などから情報を得る(3,4) □ 相手の話が分からなかったとき 	<ul style="list-style-type: none"> □ コミュニケーション 相手を注視し、最後まで話を見る/聞く(1)
B3	<ul style="list-style-type: none"> □ 障害理解 世の中には聞こえる人と聞こえない人がいて、自分や身近な人はどちらであるか知る(2,3,4) □ 自分が聞いている音がすべてではないこと 	<ul style="list-style-type: none"> □ 他者理解 話を聞いて友達との類似点、相違点に気付く(3) □ マナー 生活の中で聞いている音が聞こえていないことを意識する(4) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 状況把握 補聴器や人工耳を活用して注意して聞こうとする(1,2) □ 生活音や危険な音を知る(1,2) □ 感覚活用 手話、口形、文字情報などから情報を得る(3,4) □ 相手の話が分からなかったとき 	<ul style="list-style-type: none"> □ コミュニケーション 相手を注視し、最後まで話を見る/聞く(1)

Aさんには、「色々な考え方があることに気付く」この力を付けたいな。

単元作成

IIIシート 個別の目標を書き入れる

IVシート を参考にした活動

授業の計画を立てる

IVシート②

2 技能編(続き)

●条件に合うものを選び

例: 「私が食べたいやつはどれでしょう?」

●他者理解

例: 「2人前で食べてほしい」

1. ○さんが、今日の夜、食べたいものはどれでしょう?

①イラストを配る。

②一人前に出て、食べ方を説明する。あやまってはいけない。

③聞いている人は選ぶ。

④答え合わせ [応用]

※印をつけたら、メモをしたり

Aさんが「見たい!」と思う楽しい活動を取り入れよう。

友達とのやりとりを増やせば、色々な考えに気付けるはずだ。

授業

(授業の様子)

A児

絶対...だと思う。

あれ?○○さんは違うの?

そうか、色々な考え方があるんだね。

私は②だと思う。理由はね、...

Vシート より抜粋 (A児の振り返り)

写真を見て、みんなの意見がとておもしろかった。

教科学習でも、友達の考えを「みる・きく」場面をつくろう。

成果

「みるきくパッケージ」で個別の目標が明確になり、実態に合った単元計画が作成でき、注視する、理解する、反応を返すなどの「みる・きく」姿が増えた。

課題

自立活動で高めた力を教科学習で発揮させるには、児童同士の「みる・きく」姿を表れる活動を意図的に組み入れる教科の指導の工夫が必要である。

提言

教科学習との関連を意識しながら、自立活動で計画的に「みる力・きく力」を高める学習を行い、教科学習の内容理解につながる力を育てましょう。